

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠
改訂日: 2023 年 2 月 6 日

発行日: 2013 年 03 月 28 日

avantor™

NuSil™

バージョン: 3.0

セクション 1: 化学物質特定情報および会社情報

製品特定情報

製品形態	混合物
製品名	SP-270
別名	シリコーンプライマー
該当純物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途	
物質/混合物の用途	業務用のみ。
使用上の制限	追加情報なし

安全データシートの作成者に関する詳細

会社名

NuSil Technology LLC
1050 Cindy Lane
Carpinteria, California 93013
USA
(805) 684-8780
productstewardship@avantorsciencesgcc.com
www.nusil.com

緊急時の連絡先電話番号

緊急連絡先電話番号 800-424-9300 CHEMTREC (米国内)
+1 703-527-3887 CHEMTREC (国際および海上)
+(81)-345209637

セクション 2: 危険有害性情報

物質または混合物の分類

GHS-JP 分類

物理的危険性	引火性液体、区分 2
健康に対する危険有害性	皮膚腐食性/刺激性、区分 2 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性、区分 1 皮膚感作性、区分 1 生殖細胞変異原性、区分 2 発がん性、区分 2 特定標的臓器毒性 - 単回暴露、区分 3、昏睡 吸引性呼吸器有害性、区分 1
環境有害性	水生環境有害性 - 慢性、区分 2

ラベル要素

有害性に関する絵表示 (GHS-JP)



注意喚起語 (GHS-JP)

危険有害性情報 (GHS-JP)

危険
引火性の高い液体および蒸気 (H225)。
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ (H304)。
皮膚刺激 (H315)。
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれがある (H317)。
眼に対する重篤な損傷性 (H318)。
眠気またはめまいのおそれ (H336)。

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

予防の注意書き

遺伝子異常惹起の疑い(H341)。
発がんの疑い(H351)。
長期的影響により水生生物に毒性(H411)。
使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)。
安全上の注意をすべて読み、よく理解した上で取り扱うこと。(P202)。
熱、高温の表面、火花、裸火、その他の発火源から遠ざけること。禁煙。(P210)。
容器を密閉しておくこと。(P233)。
容器と受器を接地し、結合する。(P240)。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること(P241)。
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)。
静電放電防止対策をとる。(P243)。
蒸気、ミスト、噴霧を吸引しないようにすること。(P261)。
取扱い後は手、前腕部、顔をよく洗うこと。(P264)。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)。
汚染された作業衣は、作業場から出さないこと。(P272)。
環境への放出を避けること。(P273)。
保護手袋、保護衣、眼球保護具を着用すること。(P280)。
飲み込んだ場合:直ちに毒物センターまたは医師に電話すること。(P301+P310)。

対応の注意書き

皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。水で皮膚を洗浄すること。(P303+P361+P353)。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)。
眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗浄すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。(P305+P351+P338)。
暴露した場合や暴露が懸念される場合:医師の診察/手当てを受けること。(P308+P313)。
直ちに毒物センターまたは医師に電話すること。(P310)。
気分が悪い時は、毒物センターまたは医師に連絡すること。(P312)。
特別な処置が必要(この SDS のセクション 4 を参照)(P321)。
無理に吐かせない。(P331)。
皮膚刺激または発疹が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。(P333+P313)。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)。
火災が発生した場合:適切な消火剤を使用すること(P370+P378)。
漏出物を回収すること。(P391)。
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)。
施錠して保管すること。(P405)。
内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)。

保管の注意書き

廃棄の注意書き

その他の危険有害性

分類につながらないその他の危険有害性

既存の眼疾患、皮膚疾患、または呼吸器系疾患がある場合は、暴露によりこれらの疾患が悪化するおそれがある。

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 3: 組成、成分情報

物質または混合物の識別:

混合物

名称	濃度	化学式	公報リストの参照番号		CAS 番号
			CSCCL 番号	ISHL 番号	
ソルベントナフサ、石油、軽脂肪族	75~85%	特記なし	9-2602	9-2602	64742-89-8
白金触媒	5~10%	特記なし	-	1-(2)-239	68478-92-2
チタンテトラブトキシド	5%未満	C4H10O.1/4Ti	(2)-228、 (2)-2150、 (7)-356	(2)-228、 (2)-2150、 (7)-356	5593-70-4
トリメトキシ-7-オクテニルシラン	5%未満	C11H24O3Si	-	2-(3)-506	52217-57-9
2-(3,4-エポキシシクロヘキシル)エチルトリメトキシシラン	5%未満	C11H22O4Si	(3)-2647	(3)-2647	3388-04-3

セクション 4: 応急措置

応急措置の説明

一般的な応急措置

意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける（可能な場合はラベルを提示する）。

吸入した場合の応急措置

症状が発生した場合：屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。呼吸困難が続く場合は、医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合の応急措置

直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。汚染された領域を直ちに水で 15 分以上洗い流す。皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。暴露した場合や暴露が懸念される場合：医師の診察／手当てを受けること。

眼に入った場合の応急措置

直ちに水で 30 分以上洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の診察／手当てを受けること。

飲み込んだ場合の応急措置

横向きに寝かせる。無理に吐かせない。口をすすぐ。直ちに毒物センターまたは医師に連絡すること。

応急処置をする者の保護措置と対策

適切な個人用保護具 (PPE) を使用する。

最も重大な症状および影響（急性および遅延性）

症状／影響

眼の重篤な損傷を引き起こす。皮膚刺激。皮膚感作性。飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれがある。遺伝子異常惹起の疑い。発がんの疑いがある。眠気またはめまいのおそれがある。

吸入した場合の症状／影響

濃度が高い場合、めまい、嘔吐、無感覚、眠気、頭痛、麻酔に類似する症状などの中枢神経系の抑制を引き起こすおそれがある。

皮膚への接触後の症状／影響

赤み、痛み、はれ、かゆみ、炎症、乾燥、皮膚炎。アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれがある。

眼に入った場合の症状／影響

角膜、虹彩、または結膜に恒久的な損傷をきたす。

飲み込んだ場合の症状／影響

肺への誤嚥は摂取中または嘔吐中に発生し、肺損傷を引き起こすおそれがある。

慢性症状

遺伝子異常惹起の疑い。発がんの疑いがある。反復暴露により、皮膚の乾燥またはひび割れを引き起こすおそれがある。

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

即時医療措置および特別治療の必要性を示す兆候

暴露した場合や暴露が懸念される場合には、医師の診察、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合、製品の容器やラベルを持参すること。

セクション 5: 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

粉末消火剤、耐アルコール空気泡消火剤、二酸化炭素 (CO₂)。水は、消火に効果的でないこともあるが、火にさらされた容器を冷やすには水を使用する。

不適切な消火剤

強力な放水を使用してはならない。強力な放水を使用すると、燃焼している液体が広範囲に飛散する可能性がある。

物質または混合物に由来する特別な危険有害性

火災危険性

引火性の高い液体および蒸気。水面に浮いて再点火する可能性がある。

爆発危険性

可燃性または爆発性の蒸気・空気の混合物が発生するおそれがある。

反応性

強酸化剤には、激しく反応する。火災または爆発の危険性が増大するおそれがある。

消防士へのアドバイス

火災に関する予防措置

化学物質による火災の消火は慎重に行う。

消火時の指示

露出した容器の冷却には散水あるいは水の噴霧を使用する。大火災および大量の場合: 退避する。爆発の危険があるので、十分に距離をとった位置から消火を行う。

消火時の防護

呼吸用保護具を含む適切な保護具を装着していない者は、火災発生エリアには立ち入ってはならない。

有害燃焼生成物

炭素酸化物 (CO、CO₂)。

その他の情報

消火活動の際の流出物が排水設備や水路に入らないようにすること。

セクション 6: 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具、および緊急措置

一般的な措置

眼、皮膚、および衣服に接触しないようにすること。蒸気、ミスト、噴霧を吸引しないこと。熱、高温の表面、火花、裸火、その他の発火源から遠ざかる。禁煙。静電荷の発生を避けるために特別な注意を払う。

二次災害の防止策

裸火、火花から遠ざけること。禁煙。

緊急救援隊以外の人員

保護具

適切な個人用保護具 (PPE) を使用する。

緊急措置

不必要な人員を退避させる。安全な場合は漏出を停止する。

緊急対応にあたる人員

保護具

浄化担当スタッフには適切な保護具を装着させる。

緊急措置

現場に到着したら、まず危険なものがないことを確認し、自分とその周囲の保護、安全を図り、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。発火源を除去する。当該領域の換気を行う。

環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。環境への放出を避けること。

封じ込めおよび浄化の方法・資材

封じ込め

漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。即時的な予防措置として、全方向の流出あるいは漏出エリアを隔離する。

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

浄化方法

漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。火花を発生させない工具を使用すること。不活性物質を用いて漏出した物質の吸収や封じ込めを行う。可燃性の物質（おがくずまたはセルロース系の物質）で吸収してはならない。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。

他のセクションの参照事項

暴露管理と個人保護についてはセクション 8 を、廃棄に関する考慮事項についてはセクション 13 を参照のこと。

セクション 7: 取扱いおよび保管上の注意

安全な取扱いに関する注意事項

加工時の追加的有害危険性

空の容器は、可燃性の残留蒸気が内部に残っているおそれがあるので、取扱いは慎重にする。

技術的対策

適用される規則を遵守する。火花を発生させない工具を使用すること。防爆型の機器を使用すること。

安全な取扱いに関する注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。安全上の注意をすべて読み、よく理解した上で取り扱うこと。蒸気、ミスト、噴霧を吸引しないこと。眼、皮膚、および衣服に接触しないようにすること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。火花を発生させない工具を使用すること。飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹸と水で洗浄する。

混触危険物質や混合物の取扱いを防止

熱、高温の表面、火花、裸火、その他の発火源から遠ざけること。禁煙。次のものを避けること。強酸、強塩基、強力な酸化剤。

衛生対策

労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。

局所および一般的な換気

十分な換気を確保する。

安全な保管の条件(混触危険性を含む)

技術的対策

適用される規則を遵守する。静電放電防止対策をとる。容器と受器を接地し、結合する。防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。

保管条件

乾燥した涼しい場所に保管すること。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて保管する。換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。耐火性の場所に保管する。安全な場所に施錠して保管する。

混触危険物質

強酸、強塩基、強力な酸化剤。

特定の最終用途

業務用のみ。

セクション 8: 暴露防止および保護措置

管理基準

追加情報なし

生物学的限界

追加情報なし

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

暴露防止

適切な工学的管理

暴露の危険性のある区域のすぐ近くに、緊急用の洗眼器および安全シャワーを設置しなければならない。十分な換気が行われるようにすること（特に狭いエリアにおいて）。国／地方公共団体の規則を確実に遵守する。可燃性のガスまたは蒸気が放出されるおそれがある場合には、ガス検出器を使用する。静電気の発生を防止するため、適切な手順で接地を行う。防爆型の機器を使用すること。

個人用保護具

手袋。保護衣。防護ゴーグル。換気が不十分な場合：呼吸用保護具を着用。



保護衣の素材

耐化学物質性の素材および繊維。耐火／防炎／難燃性の衣服を着用すること。

手の保護

保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

化学薬品対応の安全ゴーグル。

皮膚および身体の保護

適切な保護衣を着用すること。

呼吸器系の保護

暴露限界値を超えるか、かゆみなどが感じられる場合は、認証済み呼吸保護具を着用する。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証を受けた呼吸用保護具を装着すること。

その他の情報

本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。

セクション 9: 物理的および化学的性質

基本的な物理的・化学的特性に関する情報

物理状態	液体
外観	無色
臭い	溶剤
臭いの閾値	データなし
pH	データなし
蒸発速度	データなし
融点	データなし
凝固点	データなし
沸点	99°C (210°F)
引火点	17°C (63°F)
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
燃焼性	データなし
蒸気圧	データなし
相対蒸気密度 (@ 20°C)	データなし
密度	データなし
相対密度	1 未満
溶解度	データなし
分配係数: N-オクタノール/水	データなし
粘度	データなし
爆発限界	データなし
粒子特性	データなし

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

その他の情報

揮発性有機化合物含量 75～85%

セクション 10: 安定性および反応性

反応性

強酸化剤には、激しく反応する。火災または爆発の危険性が增大するおそれがある。

化学的安定性

引火性の高い液体および蒸気。可燃性または爆発性の蒸気・空気の混合物が発生するおそれがある。

有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、熱、熱い表面、火花、裸火、混触危険物質、およびその他の発火源となるもの。

混触危険物質

強酸、強塩基、強力な酸化剤。

危険有害な分解生成物

通常の使用条件下では予想されない。

セクション 11: 有害性情報

毒性影響に関する情報

考えられる暴露経路

経皮、眼への接触、経口摂取、吸入

急性毒性(経口)

未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

急性毒性(経皮)

未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

急性毒性(吸入)

未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

ソルベントナフサ、石油、軽脂肪族(64742-89-8)

LD50 経口 ラット 5000 mg/kg 超

LD50 経皮 ウサギ 2000 mg/kg 超(死亡なし)

チタンテトラブトキシド(5593-70-4)

LD50 経口 ラット 2000 mg/kg 超

2-(3,4-エポキシシクロヘキシル)エチルトリメトキシシラン(3388-04-3)

LD50 経口 ラット 8 ml/kg

LD50 経皮 ウサギ 6.3 ml/kg

皮膚腐食性/刺激性

皮膚刺激を引き起こす

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

重篤な眼の損傷を引き起こす

呼吸器系または皮膚感作性

アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれがある。

生殖細胞変異原性

遺伝子異常惹起の疑い

発がん性

発がんの疑い

生殖毒性

未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

特定標的臓器毒性(STOT) - 単回

眠気またはめまいのおそれがある

暴露

特定標的臓器毒性(STOT) - 反復

未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

暴露

吸引性呼吸器有害性

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 12: 環境影響情報

毒性

急性水生毒性

未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

慢性水生毒性

長期的影響により水生生物に毒性

チタンテトラブトキシド(5593-70-4)

EC50 - 甲殻類

680 mg/L

残留性および分解性

SP-270

残留性および分解性

立証されていない。

生物蓄積性の可能性

SP-270

生物蓄積性の可能性

立証されていない。

土壤中の移動性

追加情報なし

その他の有害な影響

オゾン層に有害

未分類

その他の情報

環境への放出を避けること。

セクション 13: 廃棄上の注意

廃棄物処理方法

推奨される廃棄方法

内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

その他の情報

空の容器は、可燃性の残留蒸気が内部に残っているおそれがあるので、取扱いは慎重にする。

生態系 - 廃棄物質

水生環境に有害な物質。下水と排水溝への流入を防止すること。環境への放出を避けること。

セクション 14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDS の起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDS が発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

UNRTDG に準拠

国連正式輸送品名

石油蒸留物(他に特定されない)

梱包・包装等級

II

ID 番号

1268

危険等級

3

ラベルコード

3

海洋汚染物質

海洋汚染物質

IATA に準拠

国連正式輸送品名

石油蒸留物(他に特定されない)

梱包・包装等級

II

ID 番号

UN1268

危険等級

3

ラベルコード

3

ERG コード(IATA)

3H



SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

IMDG/IMO に準拠

国連正式輸送品名	石油蒸留物(他に特定されない)
危険等級	3
ID 番号	UN1268
梱包・包装等級	II
ラベルコード	3
EmS-No.(火災)	F-E
EmS-No.(漏出)	S-E



その他の情報

その他の情報 補足情報なし。

セクション 15: 適用法令

適用法令

この混合物中のすべての成分は、日本の ENCS (既存および新規化学物質) の目録に記載されており、ISHL (労働安全衛生法) は適用から除外されているか、関連規則による CBI 要件または開示規則に従い開示されていない。

ソルベントナフサ、石油、軽脂肪族(64742-89-8)	
労働安全衛生法	第 3 類有機溶媒など (施行令、条、別表 6-2、有機溶剤中毒予防規則、第 1 条、第 1 項、項目 5) 名称表示すべき有害物質 (同法 57 条、第 1 項、施行令第 18 条項目 1、項目 2、付表 No.9) 危険物質 - 引火性物質 (施行令付表 1 項目 4) 通知対象物 (法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 第 1 号、第 2 号、別表 No.9) 石油ナフサ (政令番号: 330) 特殊診察対象物質、現行取扱労働者 (同法第 66 条第 2 項、施行令第 22 条第 1 項)
消防法	第 4 類 - 引火性液体 - 第 1 石油類 - 不溶性 (同法第 2 条第 7 項、付表 1、第 4 類)
大気汚染防止法	揮発性有機化合物 (同法第 2 条第 4 項) (物質は有機溶剤中毒予防規則に該当)
海洋汚染等および海上災害の防止に関する法律	油性混合物 (施行令第 2 条第 2 項) 引火性物質 (同法第 3 条、第 6 項第 2 号、施行令第 1 条第 7 項、表第 1 の 4) 有害液体物質 (分類 X)、油性混合物 (施行令、条、別表 1、項目 1-a(81)) 有害液体物質 - 分類 Y (同法第 3 条第 3 項、施行令第 1 条第 2 項、添付表 No.1 項目 2)
外国為替および外国貿易法	第 2 号の承認 (輸入貿易管理令、第 4 条第 1 項第 2 号) 輸出承認 (輸出貿易管理令、付表 2)
道路法	自動車交通規制 (施行令第 19 条の 13、日本道路公団出版)
労働基準法	がん原性 (同法第 75 条、第 2 項、法令添付表 1-2、項目 7)
チタンテトラブトキシド(5593-70-4)	
消防法	第 4 類、引火性液体、第 3 石油類、水不溶性液体 (同法第 2 条第 7 項、付表 1、第 4 類)
外国為替および外国貿易法	輸出貿易管理令付録 1 第 16 項

SP-270

安全データシート

JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準拠

セクション 16: その他の情報

作成日または最新改訂日

2023 年 2 月 6 日

参考文献

本書は日本の危険有害性周知基準である安全データシート (SDS) の要件 JIS Z 7253 および JIS Z 7252 に準じて作成された。

本安全データシート (SDS) の情報は、本 SDS 記載の日付時点での正確なデータに基づいて作成されたものである。法の許容する最大限の範囲で、NUSIL TECHNOLOGY LLC およびその関連会社 (「NUSIL」) は、本書記載の情報 (正確さ、完全性、目的または使用の適宜性、商品性、不侵害、性能、安全性、適合性、および安定性に関する情報を含むがそれらに限定されない) に関するすべての表明および保証については、明示的に責任を負わない。本 SDS は、適切に訓練されたスタッフによる関連製品の適正使用、取扱い、保管、および処分に関するガイドとなることを目的としているが、すべてを網羅したものではない。NuSil 製品のユーザーは、ユーザー自身の目的と使用内容に応じて、各製品および製品の組み合わせの安全性、適合性、適正使用、取扱い、保管、および処分を決定するにあたり、ユーザー独自の試験を実施し、ユーザー自身で判断を下すことを推奨する。法の許容する最大限の範囲で NuSil は、いかなる条件においても、利益の損失、風評被害、製品の回収または事業の中断を含む特殊、間接、偶発的、懲罰的または派生的被害の種類を問わず、それらの責任を負わないものとし、NuSil の製品を購入したユーザーは、そのことに同意するものとする。

日本 GHS SDS